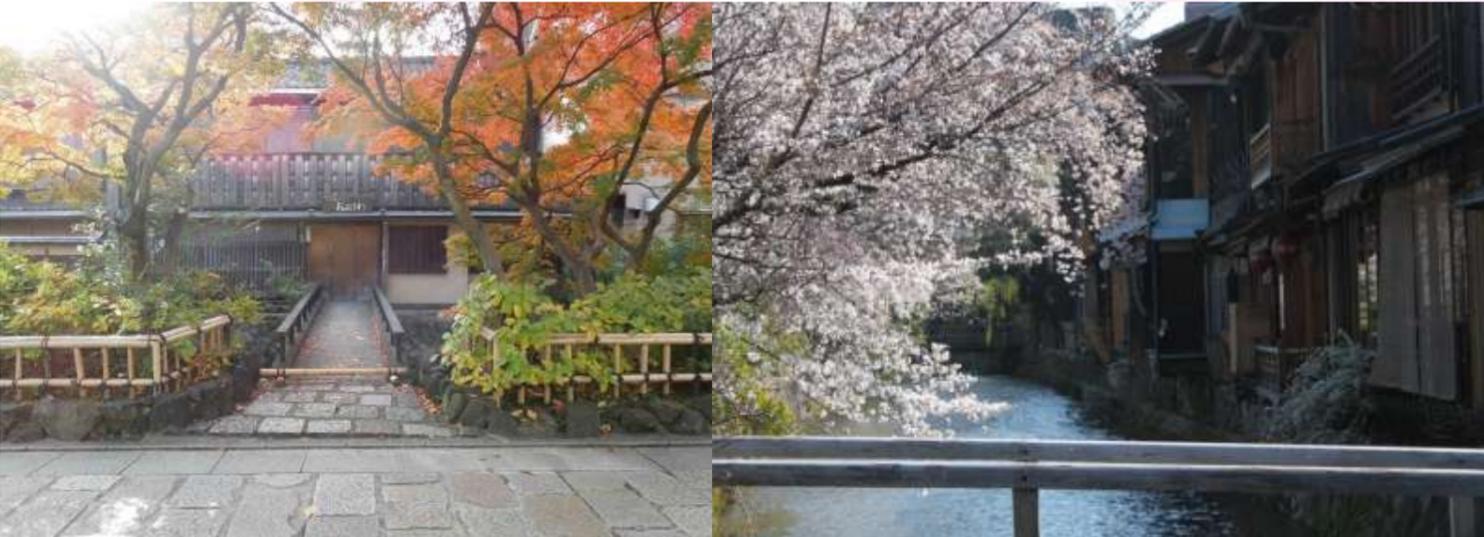


祇園から世界へ

祇園新橋の伝統的建造物を活用し、
京都と世界を繋ぐ懸け橋となっていただく
事業者を募集します。



今後の予定

平成26年5月中旬	公募型プロポーザルの開始
同年 11月頃	基本協定の締結
平成27年度	施設の開設



●お問い合わせ先（担当部署）●

京都市都市計画局都市景観部景観政策課
〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町 488
電 話：075-222-3397 FAX：075-222-3472
メールアドレス：keikan@city.kyoto.jp

平成26年5月



享保年間（1716-1736）に公許された「祇園新地内六町」を起源とし、明治14年に甲乙に区分され現在に至る「祇園甲部」は、現在、京都最大の花街として、春の「都をどり」、夏の「祇園祭花傘巡行」、秋の「かにかくに祭」、冬の「南座顔見世総見」など、一年を通じて多彩な催しが行われ、年間400万人が訪れる京都第一級の“おもてなし空間”としてにぎわっています。

千本格子にすだれを垂らしたお茶屋の町並みを背景に、日中は、お稽古やお座敷に向かう芸妓や舞妓を見かけることができ、夜になると、格子からもれ出る明かりと通りの街灯の影が織り成す風情がお茶屋の風情を今も醸し出しています。

この地区の北部に位置する「祇園新橋」は、白川の清らかな流れや桜並木、石畳とともに整然と立ち並ぶお茶屋の町並を今も色濃く残し、『重要伝統的建造物群保存地区』として国内はもとより、世界の人々を魅了し、愛され続けています。

この祇園新橋の玄関口ともいべき場所に、その建物は佇んでおります。
江戸・明治の動乱期に維新の志士たちを支えたという芸妓により、明治中期に建てられたと伝えられるその建物は、白川に面するお茶屋の風情を保ちながら、時代の流れの中で席貸旅館、寿司屋、お座敷てんぷら屋と業態を変えつつ、昨年6月に所有者の篤志により京都市に寄贈されました。

世界が注目している祇園。この祇園新橋の歴史・文化・景観の魅力を最大限引き出し、歴史都市・京都の魅力を世界に発信するため、この伝統的建造物を活用し、祇園新橋の町並みや風情を守りつつ、新たな魅力を創出し、更に京都の文化を世界に発信していく事業者を広く募集します。

■プロジェクトの概要

このプロジェクトは、篤志家から寄贈された「祇園新橋」の伝統的建造物を事業者に出し、歴史都市・京都の魅力を世界に発信できるような施設として整備・活用するものです。

事業者は、「祇園新橋の町並みと風情を守る」、「祇園新橋の新たな魅力を創る」、「京都の文化を世界に発信する」を基本コンセプトとして、公募型プロポーザル方式により応募者の中から選定します。

選定された事業者には、事業に必要な建物の改修に加えて、耐震改修及び屋根修理工事を行っていただきます。（耐震改修及び屋根修理の費用は京都市が負担します。）

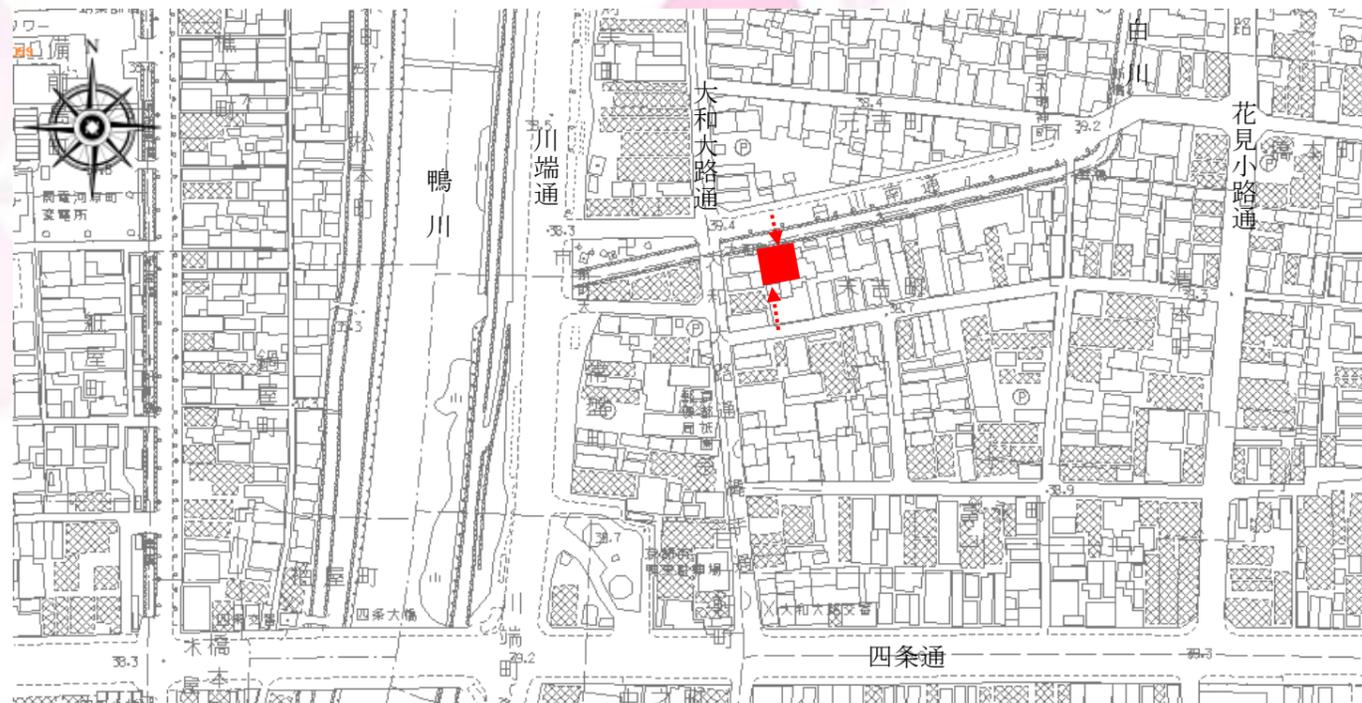
坪庭



北面（白川より）

トンネル路地

かにかくに碑



← 出入口 ■ 本物件

■物件概要

本物件は、四条大和大路を二筋上がった通りを東に入った北側の敷地です。敷地の北側は白川に面し、石畳の白川南通から通路橋を渡って直接出入りでき、京阪本線祇園四条駅から約300mの位置にあります。

所在地	京都市東山区末吉町 103-2, 77-6
土地	171.20平方メートル
建物	木造2階建て
延床面積	225.45平方メートル
	1階：115.37平方メートル
	2階：110.08平方メートル
通路橋	12平方メートル